

ほくは元方民部卿の靈のつかうまつりつるなりといへば、このさぶらひ、それもさるべきなり、このほどの御事こそこの外にかはりて侍れ、なにがしはいとくはしくうけ給はりたることども侍るものをといへば、世つぎ、さも侍らん、つたはりぬる事はいでくうけ給はらばや、ならひにし事なれば、もの、猶きかまほしく侍るぞといふ、けうありげにおもひたれば、事のやうだいは、三條院のおはしましけるかぎりこそあれ、うせ給ひにけるのちは、よのつねの東宮の御やうにもなく、殿上人などまゐりて御あそびせさせ給ふや、もてなしかしづき申人などもなく、いとつれづれにまざるゝかたなくおぼしめされけるまゝに、心やすかりし御ありさまのみ戀しく、ほけくしきまでおぼえさせ給ひけれど、三條院おはしましけるかぎりには、院の殿上人などもまゐりや、御つかひもまげくまゐりかよひなどするに、人目もまげくよろづなぐさめさせ給ふを、院うせおはしましては、世の中のものおそろしく、おほぢのみちかひもいかゞとのみわづらはしくふるまひにくきにより、宮司などだにもまゐりつかうまつる事もかたくなりゆけば、ましてげすの心はいかゞはあらん、どのもりづかさのまもべも、あさぎよめつかうまつる事もなければ、庭のくさもまげりまさりつゝ、いとかたじけなき御すみかにておはします、まれまれ参りよる人々はよにきこゆる事とて、三宮^{○後}かくておはしますを、心ぐるしく殿も大宮^{○後}も思ひ申させ給ふに、もしうちををこ宮もいでおはしましなば、いかゞあらん、さあらぬさきに東宮にたてたてまつらばやとなんおほせらるなる、さればおしてとられさせ給へるなり、^{○申}さていかなる事にか、東宮御位せめおろしとりたてまつり給ひては、又御むこにとりたてまつらせ給ふほど、もてかしづきたてまつらせ給ふ御ありさま、まことに御心もなぐさせ給ふばかりこそきこえ侍りしか、

〔皇朝史略^{後六}一條〕外史氏曰、甚哉道長之專也、既逼三條帝、令遜其位、以擁立其外孫、^{○後}一條又立敦明